

平成 25 年 度

# 事業報告総覧

財団法人 日本蛇族学術研究所

URL:<http://www.sunfield.ne.jp/snake-c/>



## 平成25年度の事業概要

内閣府に一般財団法人への移行申請を行い、26年3月19日付で認可証が交付された。それに基づき法務局に登録を行い、26年4月1日付けで一般財団法人への移行が完了した。

ヘビ類の飼育展示については中国よりマムシが大量に入荷し、野外飼育場で展示方法を工夫して見やすく展示することができた。社会教育事業として研修、講演等を積極的に行った。また、毒ヘビ110番活動として、一般の人だけでなく医療機関に対しても非常に多くの電話やメールでの問い合わせに対応した。さらに、群馬県でヤマカガシ咬症重症例が発生し、抗毒素を緊急輸送して、その治療に貢献した。

### A. 公益事業

#### 1. 社会教育事業

##### 1) ヘビ類の飼育展示

毒蛇温室、熱帯蛇類温室、大蛇温室、子ヘビコーナー、野外飼育場等で約80種 3,000 個体（ヘビ類の他、トカゲ、カメ、ワニなど含む）を飼育展示した。

##### 2) 講演、研修会、啓蒙活動

所内外で講演や研修活動を行った。

###### (1) 爬虫類体験教室の開講

毎週日曜日に、爬虫類や有毒生物などについて一般来園者向けに講座を開いた。

###### (2) スネークセンターガイドツアー

事前の申込みを受け、1時間30分ほどかけてセンター内をガイドし、詳しく解説した。また、いつもは使っていない小型のニシキヘビやきれいな無毒ヘビとの触れあいなども行い、非常に好評であった。

###### (3) 夏休みハ虫類教室の実施

夏休み期間の毎日曜日およびお盆休みの期間に、研修室において「夏休みハ虫類教室」を行い、一般入場客に対してスライドや生きた蛇などを使って、蛇を中心とした爬虫類について解りやすく説明を行った。

###### (4) ヘビや毒蛇咬症に関する講演、講習の実施

- ・特別授業「危険な毒蛇を覚えよう」（5月、藤岡市立第一小学校）  
（7月、藤岡市立美九里東小学校）
- ・講演「ヘビと仲良くなろう」（6月、桐生自然観察の森）
- ・サイエンスウィーク2012（7月、群馬県生涯学習センター）
- ・自然の解説者養成講座「爬虫類について」  
（10月、日本蛇族学術研究所）
- ・タンビマムシ、シマヘビの解剖実演（6月、九州国際大学附属高校）
- ・講演「ヘビの秘密をさぐろう！」（6月、北九州市立児童文化科学館）
- ・「子どものための両生は虫類学入門」（7月、九州大学伊都キャンパス）

- ・講演「へびってどんな動物？」（8月、北九州市到津の森公園）
- ・「蛇談議」トークショー出演（12月、北九州市到津の森公園）

(5) マムシ対策研修講座の開講

4月から9月の期間に月1回、野外でのマムシやヤマカガシ咬症の予防や応急処置、診断、治療などについて講座を行い、一般の方、自然観察指導委員、医療関係者等が受講した。

(6) 職場体験－中高学生の職場体験の受け入れ

太田市藪塚中学校	4名	7月3日間
新潟県立長岡農業高等学校	2名	8月3日間
桐生市新里中学校	1名	10月3日間

3) 特別企画

(1) 第12回ペット爬虫類コンテスト

太田市・太田市観光協会の協賛で4月29日に行った。約30名の参加者があり、へび、トカゲ、カメなどを持ちより、美しさ、健康具合等を審査した。

(2) 白蛇観音供養祭 期日：49回（春） 4月 7日  
50回（秋） 10月20日

死亡したへび類や餌となった動物の供養を行うと同時にへびについての理解を深めてもらうためのイベントを行った。

(3) 「へびと人展（へびに魅せられた人展）」＊標本展示（到津の森公園）  
期間：11月9日～12月29日

4) 毒蛇咬症国際研修センターにおける活動

(1) 毒蛇110番活動

一般の人からのへびや駆除に関する問い合わせや咬まれた患者からのへびかどうかや種類の判別、病院からのへびの判別や診断、治療についての問い合わせを受けた。

本年度は、ヤマカガシ咬症による重症例が群馬県で1件発生し、その診断と治療のアドバイス、抗毒素の輸送手配をした。太田警察に依頼し、当研究所から警察車両により搬送した。重症化していたが、迅速な対処により急速に回復した。

問い合わせ件数

	Eメール	電話	合計	(咬症関連)
23年	255	162	417	(91)
24年	299	192	487	(78)
25年	193	230	423	(73)

(2) 研修生の受入れ

日本ペット&アニマル専門学校	1名（1週間）
日本獣医生命科学大学	1名（1週間）

上野動物園	3名（1日）
須磨水族園	2名（3日）

#### 5) ホームページによる情報の発信

当センターでのイベントやヘビに関する情報の発信を積極的に行った。ヘビの判別に関する問い合わせが多いことから、判別に役立つ写真を多数載せ、解説を加えた。また、ペットの爬虫類による事件などの情報も発信し、爬虫類飼育者に注意を喚起した。さらに、センターでの出来事などできるだけ情報を更新し、アクセスの増加に努めた。

#### 6) その他

##### (1) 警察、保健所、税関への協力

①野外で捕獲された外国産及び国産爬虫類を警察から引き取った。

コーンスネーク、ボアコンストリクター、アオダイショウ、ニホンマムシ、イグアナ、ミシシッピーアカミミガメ、ミシシッピーニオイガメ、ケヅメリクガメ、クサガメ等20個体を引き取った。

②違法な飼育における家宅捜索の協力

警視庁の家宅捜索に協力した。

##### (2) スネークファンクラブ通信の発行

ファンクラブ通信を4回発行した。(季刊)

## 2. 研究事業

### 1) 野外飼育場におけるヘビ類飼育に関する研究

野外飼育場でのシマヘビとタンビマムシの飼育環境について、本来の自然とは異なる環境である高密度で、しかも隠れ家の少ない環境下でも死亡率を低くできるように検討した。直射日光により高温になりやすいことに対しては植物による緑のカーテンや農業用遮光ネットを用い、また、隠れ家については、中国の飼育場で用いられている板の積み重ねにより立体化することで、飼育環境が改善された。さらにこれらの環境を改善すると同時に給餌量（ウズラ雛）や給餌期間を検討しさらに死亡率の低下を目指す。

### 2) 厚生労働省科研費研究

○ヤマカガシ及びセアカゴケグモ抗毒素の力価試験、品質管理試験

厚生科学研究班で2000年に試作したヤマカガシ抗毒素が、製造後14年経過したため、力価試験、安全性試験等を行った。その結果、力価等が低下していないことがわかり、継続して使用できることを確認した。群馬県で発生した重症例で使用し、顕著な治療効果がみられ、有効性が確かめられた。

### 3) 受託研究

○ハブとの共存に関わる総合調査事業（鹿児島県からの委託）

奄美ハブ生態・環境研究会を当研究所内に設けて、東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設と共同で研究を行った。ハブの移動抑制のた

めの防風ネットとトラップを組み合わせたものを手々地区に新設し、ハブを捕獲した。徳之島に比べて奄美大島のハブ捕獲数が増大している原因を検討した。また、調査地域の環境調査も行うと同時にハブの繁殖調査も行った。

#### 4) 学会発表及び論文、報告書等

##### (1) 論文、報告書等

森口 一：徳之島町調査地域の環境調査：平成25年度ハブとの共存に関わる総合調査事業報告書（奄美群島振興開発事業）。

### B. 収益事業

#### 1. ヘビの登攀防止実験、忌避剤の検定等

アオダイショウによる電気関係の事故が毎年起きており、鉄塔の登攀防止実験を行った。また、試作された忌避剤の検定も行った。さらに、センター内に造られたスズメバチの巣に対して駆除試験も行った。

#### 2. ぬけがらやヘビの写真等物品の販売

ヘビの飼育において得られた脱皮殻及びヘビの写真等の販売を行った。

#### 3. テレビ撮影の協力、写真、映像の貸し出しを行った。